

シンポジウムS1-5

琉球大学病院における新型コロナウイルス感染症環境下の高気圧酸素治療状況

砂川昌秀¹⁾ 上江洲安之¹⁾ 亀山沙矢香²⁾前原博樹³⁾ 堂籠 博^{3) 4)}

- | | | |
|----|--------|--------|
| 1) | 琉球大学病院 | 臨床工学室 |
| 2) | 琉球大学病院 | 看護部 |
| 3) | 琉球大学病院 | 高気圧治療部 |
| 4) | 琉球大学病院 | 救急部 |

【はじめに】

現在、新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の感染拡大により、社会的人流抑制を目的とした蔓延防止法や緊急事態制限が施行されている。琉球大学病院（以下当院）は、COVID-19の感染対策として制限された診療体制がとられ、高気圧酸素治療（以下HBO）も2020年5月から約1年近く外来患者治療を休止し、入院患者を対象とした治療となっている（図1）。

【目的】

今回、COVID-19の感染拡大によるHBO患者の治療制限の影響を紹介患者数と治療件数、および適応疾患の変化を分析し、沖縄県におけるHBOを必要とする患者に対する施設間協力を検討する。

【方法】

COVID-19の感染確認前の2020年1月から感染増加が見られた2021年3月の期間によるHBO患者を対象とした。

【結果】

当院のHBOは、2019年度の治療件数4037件、患

者数242名と前年度から増加傾向を示していた。2020年度は、外来患者のHBOを制限しており、治療件数は2219件、患者数も157名に減少した。主な適応疾患は、2019、2020年度とも突発性難聴が全体の約30%を占め、次いで難治性潰瘍、骨髄炎、放射線併用治療となった。2019年度の突発性難聴患者数は82名、HBO件数が1055件であり平均HBO回数は12.8回であった。2020年度は、患者数が40名、HBO件数242件、平均HBO回数6.1回と大幅に減少した。難治性潰瘍を伴う末梢血管障害は、患者数が56名から46名に減少し、骨髄炎疾患なども同様に減少している（図2）。

【考察】

当院ではHBOにおける感染防止対策として2020年2月から治療患者の体温測定とマスクやフェイスシールドなどの感染予防具の使用、手指消毒を徹底した。3月からの入院患者と外来患者の治療を分けた治療体制や患者人数の制限。また5月からの外来患者のHBO休止など、院内各部署におけるCOVID-19対応は、職員の努力によるものが大きく、現在までHBO患者の感染発生は見られていない。8月下旬の沖縄県での感染拡大状況は、当院の各部署における職員と入院患者の感染増加が見られ、HBOも更に治療患者数を制限した対応となった。

【まとめ】

今後もCOVID-19の感染対応は続くと考えられ、沖縄県のHBO適応患者に対する患者の診療体制を施設間で調整し、HBO患者の移動など協力体制が可能か検討していきたい。

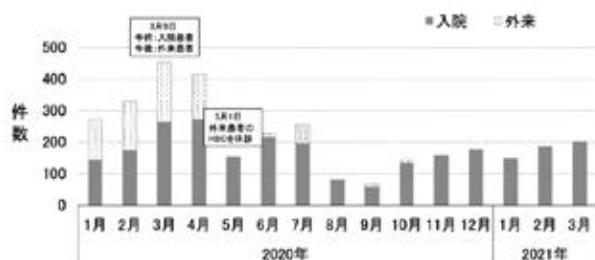


図1 入院・外来患者に対する HBO 件数の変化

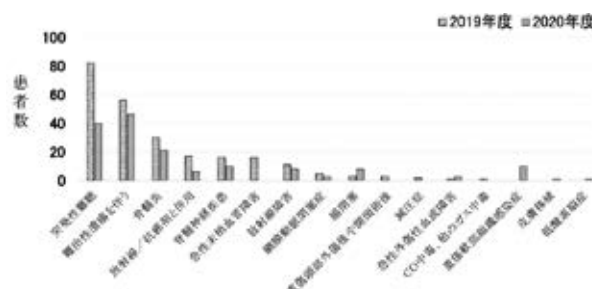


図2 COVID-19拡大時期における HBO 疾患数の変化